

■ 茶樹の放射性セシウム濃度低減に向けた今後の生育管理について ■

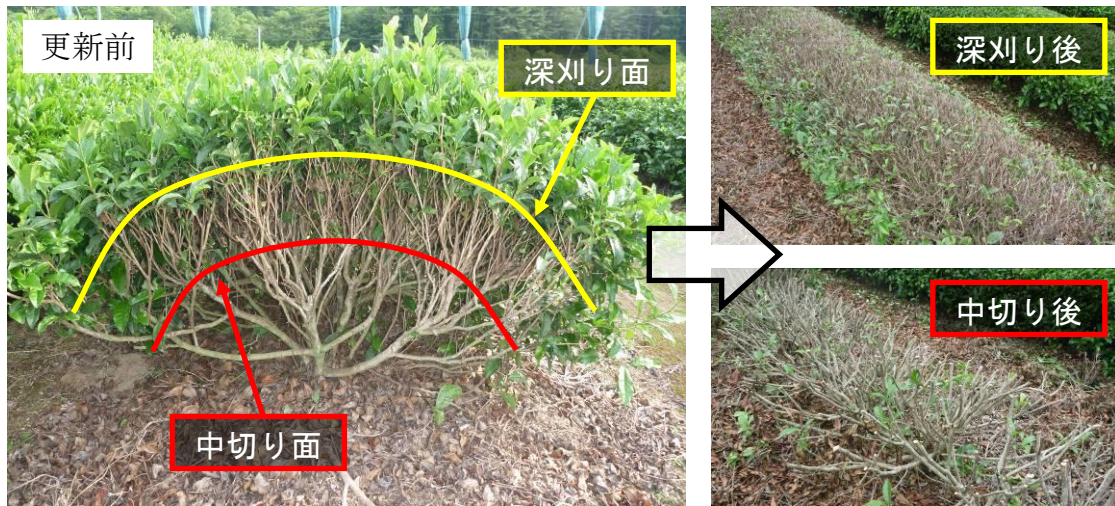
- ・ お茶の放射性セシウム濃度をより一層低減させるため、地域のお茶の放射性セシウム濃度に応じて「中切り」・「深刈り」等の更新作業を実施してください。
- ・ 放射性セシウム濃度の大幅な低減が期待できる「中切り」については、一番茶摘採直後に行ってください。作業時期が遅くなると、茶樹の生育が不良となるおそれがあります。
- ・ 茶樹の健全な生育を促進するため、更新作業と併せて、適切な施肥・防除作業を実施してください。

注) 放射性セシウム基準値：飲用茶については、飲用に供する状態で10Bq/kgを下回ること

■ 一番茶後の更新作業について

- ・ 深刈り…古葉が残らない程度に、摘採面から10～20 cmの深さでせん枝する。
- ・ 中切り…地上30～50 cmの枝が太いところで切る。

深刈りは、遅くとも7月上旬までに行ってください。
中切りは、一番茶摘採直後が適期です。



■ 施肥・防除作業について

- ・ 施肥…7月下旬～8月上旬にかけては土壌改良の適期です。土壌診断結果に基づき、適切な土壌改良を行いましょ。また、8月中下旬には秋肥として茶専用肥料等、有機物を多く含む肥料を施用してください
秋肥施用量：窒素 15 kg，リン酸 12～18 kg，カリ 12～18 kg（10 a 当たり）
- ・ 防除…「中切り」・「深刈り」等の更新作業を行うと、芽数が減少し、株張りも小さくなるため、いったん病害虫が発生すると被害が大きくなりがちです。特に、チャノミドリヒメヨコバイ、アザミウマ類、ダニ類等の微小害虫の発生に注意し、早期発見・早期防除に努めてください。なお、カイガラムシ類が発生している場合は、更新作業後に薬剤散布を行うことで効果的な防除が可能となります。

本資料に関するお問合せは、

茨城県県央農林事務所 企画調整部門 振興・環境室 農業振興課（電話：029-221-3034）
茨城町 生活経済部 農業政策課 農業振興グループ（電話：029-240-7118）

までお願いします。